ゆう和

Air-Conditioning
& Plumbing Contractors
Association of Hyogo

No.016

2010 WINTER

協会創立30周年記念特集号

特集1 「創立30周年記念」
講演会・式典

特集2 「創立30周年記念」
懇 親 会

特集3 「創立30周年記念」
記 念 事 業

■ 新年のご挨拶
・神田会長・井戸兵庫県知事・協会顧問

■ 平成22年 新年交礼会

防災&エコ探検隊　兵庫県災害対策センター
防災意識を、いま新たに!

青年洋上大学参加レポート

県庁だより

ゆう和 2010 WINTER No.016

発行／社団法人 兵庫県空調衛生工業協会

社団法人　兵庫県空調衛生工業協会
tel.078-341-0991 fax.078-341-0874
http://www.hyogo-kuei.or.jp

私たちは、兵庫県と防災協定を結んでいます。
ライフラインを守り、災害時の復旧に尽くします。

PRINTED WITH SOY INK
R100
※この冊子は、大豆油インキと再生紙を使用しています。

2010年 新年のご挨拶

兵庫県知事
井戸敏三

元気で安全安心な兵庫をめざして

新年あけましておめでとうございます。

二十一世紀も10年目、今年は阪神・淡路大震災から15年の節目を迎えます。

これを期に、改めて震災の経験と教訓を伝承する「伝える」「備える」取り組みとともに、創造的復興を成し遂げてきた兵庫の力を礎に、21世紀の成熟社会を先導する地域づくりを進めましょう。

震災直後に５４０万人まで減少した人口も、昨年11月、５６０万人を超えました。今後予測されている本格的な人口減少社会が到来しても、地域社会が活力を失わないよう、兵庫の多様性を生かし、元気な兵庫づくりに取り組まなければなりません。

一つは、安全安心の確保です。台風９号の教訓を踏まえ、山の管理や谷筋の砂防対策などを徹底します。また、新型インフルエンザ対策、緊急経済雇用対策に万全を期します。

二つは、地域活力の増進です。ふるさと自立計画への支援、商店街の活性化、就農促進など、地域の努力を応援します。また、仕事と生活が調和する社会、女性や高齢者の元気を生かせる社会の実現をめざします。

三つは、新時代の先導です。少子化、高齢化、地域偏在とともに進む人口減少などの社会の変化に対応するとともに、市町、県、広域の各段階で、自主自立をめざした改革を進めます。

変化の激しい時代だからこそ、柔軟な発想と行動力で、ともに安全安心な兵庫をつくりましょう。

「厳しさも　課題も乗り越え
　行く先は　新たな地域の夢結ぶ途」

兵庫県まちづくり担当部長
本井　敏雄

平成22年　新年ご挨拶

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、まちづくり行政の推進に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年は、淡路花博開催から10年目の節目を迎え、3月20日から5月30日の間、淡路夢舞台等をメイン会場に「人と自然の新たなコラボレーション」をテーマとした淡路花博２０１０「花みどりフェア」を開催します。

また、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するため、5月23日に第21回全国「みどりの愛護」のつどいを兵庫県立三木総合防災公園で開催します。

さらには、最終年度にあたる県民まちなみ緑化事業の効果の検証を進めてまいります。

今後とも、「元気で安全安心な兵庫」をめざしてまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとって充実した素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

参議院議員
末松 信介

あけましておめでとうございます。兵庫県空調衛生工業協会ご関係者の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

早いもので、参議院議員として6回目の新年を迎えさせて頂きました。いよいよ本年7月には1期目の任期満了を迎えます。

昨年参議院議員選挙での歴史的な敗北を受けて、一昨年以来1年2ヶ月在職致しておりました財務大臣政務官を辞し、自民党兵庫県連会長に就任致しました。党の再生を期して参院選挙、次期衆院選、そして統一地方選に向けた体制の立て直しに邁進しております。反省すべきは謙虚に反省し、しっかりと皆様方の声に耳を傾け、自民党のあるべき姿を再構築して、今一度地域や地方が主人公の政治を進めて参ります。

世界金融はリーマンショック後の最悪の状況から立ち直りかけたところで、今度はドバイショック発生と、依然として不安定です。日本でも株価の下落、円高ドル安の急進展などの問題がさらに深刻化しています。ここ数年の景気を牽引してきた輸出関連産業も失速、一旦不況から脱したかに見えた日本経済は今また不況の波に洗われています。

地元、兵庫県内につきましても、各地に出かける度に気づきますのは、残念ながら、貸し店舗や貸し土地の案内板が如実に増え続けていることであります。ひと頃は、ここもあそこもとビルやマンションの新規着工の現場の増加ぶりに目を見張ったのが、一転してそれらの着工が見合わされ、時間貸し駐車場のような遊休地対策としての土地利用がやたらと目に付くようになりました。

貴協会各社におかれましても、国・地方公共団体の財政状況の悪化による、また現政権の政治姿勢も影響した「官公需要の停滞」、急速な不況の進展により企業の設備投資が大幅に減退したことが原因である「民間需要の停滞」と、まさに経営の根幹を揺るがしかねない社会情勢の中、日々社業維持のためご苦労されていると拝察致します。ただ二方で、21世紀の地球的課題であるエネルギー問題、さらにはCO_2削減問題に直接関係する会社ばかりであり、今の状態をかえって大きな「ビジネス・チャンス」ととらえ、大きく飛躍されていることも期待しているところです。

さらに、厳しい経済情勢の中、我が党も経済の建て直しを最優先課題として取り組んで参りましたが、志半ばで退陣することとなりました。現政権には、我々がやりつつあった、積極果敢な、即効性のある財政出動。中でも緊急時に最も即効性が期待される公共事業の意義を理解し、速やかに実行に移して頂きたいと思います。「コンクリートか人か」は平時の問答と考えます。我が党としても、経済の建て直しには協力を惜しまないつもりです。

私もこの一年「国民生活の危機脱出」に向け、全身全霊を傾け「真剣勝負」に臨んで参ります。どうか今後とも格段のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、年頭の挨拶と致します。

兵庫県議会議員
立石 幸雄

新年あけましておめでとうございます

皆様にはご家族お揃いでお健やかな新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

昨年は、年初来景気の低迷が続くなか、5月には新型インフルエンザの県内での発生、さらには8月の台風による水害など県民生活にとって先行き全く不透明な状況が続きました。

加えて政治の世界では、井戸知事の3回目の当選があったものの8月の衆議院選挙では自民党の歴史的な敗北により。１９５５年来の自民党政権が崩れ民主党へと政権が変わりました。

民主党政権発足以来約5カ月、間もなく通常国会が開催され、平成22年度予算の審議が始まりますが、私たち国民生活は明るさが見えてくるのでしょうか。民主党政権は、国民生活第一とのことですが景気は上昇せず、円高ドル安で産業界は大きな痛手、今後の雇用や、地域の中小企業、農林漁業などの自営業などこれからどうすればよいのでしょうか。

一方でタバコ税や環境税など増税も目白押し、さらに地域の振興・発展は、地方自治体の税財源はどうなるのか等不安が一杯と言わざるを得ません。

不安がつてばかりはいられません。私たち地方議員は地方で今こそ創意工夫をして兵庫県民の安全安心のために精一杯の努力をしなければなりません。新年にあたり決意を新たにしたところでございます。

今年は干支でいう寅年です。寅は動くという意味があり、春が来て草木が生じる状態を表しているとされます。

そのような意味から、今年一年が皆様にとりまして良い動きの年となりますよう心からお祈り申し上げます。

平成22年1月1日

兵庫県議会議員
羽田野 求

新年あけましておめでとうございます。平素は私ども兵庫県議会に格段のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今回のデフレは、２０００年代初頭より深刻で、消費者物価の下落幅は大きく、需要ギャップも40兆円になっています。鳩山デフレと言われるように日本の最大の危機は政権に危機感が乏しいことであります。鳩山政権はマニフェストにこだわりすぎて、国家戦略の最優先課題である成長戦略の取りまとめを予算編成後に行いました。

デフレ脱却には、金融政策とともに40兆円の需要不足を埋め、新しい需要を創出する実効ある成長戦略こそが必要であります。

そのためには、日米同盟を強固にしたうえで、米国を含め、ＡＳＥＡＮ、中国、韓国など世界の成長センターとＦＴＡ締結などにより「アジア内需」を取り込むことであります。

そのなかで、地球温暖化防止のグリーン革命が日本の成長戦略の柱になることが間違いないと思います。すでに、エコカーや太陽光発電などの分野はグローバルな大競争時代に入っています。

温暖化防止対策の柱は太陽光などの自然エネルギーへの転換などエネルギー供給の低炭素化とエコカー、公共交通など移動手段の普及やオフィス、住宅など建築物の省エネ化、断熱化などが基本的方策と言われています。これらの方策を推進するのは、技術開発とともに地域での取り組みも重要であります。

先月、兵庫県も環境審議会大気部会が開催され、新地球温暖化防止計画の策定に着手しました。私も審議会委員として「経済発展・技術開発」「地域重視・自然志向」からの視点で、皆様のご意見を聞きながら、実効性のある計画策定に取り組んでまいります。

新たな飛躍、元気ひょうごを創るために今年も全力で働いてまいります。

貴協会のますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

30th ANNIVERSARY

協会創立30周年記念特集(1)

記念講演・式典

昭和54年12月の協会設立から30年。それを記念し、平成21年11月18日、ホテルオークラ神戸において、創立30周年記念講演および記念式典・懇親会を華々しく開催しました。

午後3時、多くの人々の列席を得て、記念講演会が開幕。兵庫県立コウノトリの郷公園の増井光子園長が登壇し、スライドを駆使しながら、「人と動物とのかかわり」についてお話しくださいました。

人は、古来より自然と関りをもって過ごしてきました。まず、生きる糧として動物を利用しました。肉や卵、乳を食料にし、毛皮や骨、角などを加工して衣類や日用品に用いました。また、牛や馬、ゾウ、犬などを飼い慣らして労働力とし、医療の分野では動物を実験等に使っています。観賞用や暮らしの伴侶としてもさまざまな動物に支えられています。

動物に対する感情は時代によって変化します。野生のアザラシが多摩川で発見された時は、毎日3000人もの人が見物に来るという加熱ぶりでした。どうしてアザラシを見物するのかというと、それが野生だからです。最近は、野生動物が喜ばれるようになったわけです。1960年代には、川に上った野生のトドを誰も好意的に迎えなかったのとは大変な違いです。

増井光子氏による記念講演

確かに、風景の中に動物がいると人の心は安らぎます。しかし、生き物の住処を奪い、生物の多様性を阻害してきたのは人間です。経済効率を優先させるために、森が伐採され、田が埋め立てられ、自然が消えてきました。人が里山を放棄したことで生物が生息する環境も悪化。生物は減少し、その多様性も失われつつあります。

もちろん、野生動物が人に与える問題も見過ごせません。鳥類や哺乳類による農業・漁業被害、鳥によるゴミ問題、クマによる果樹や人的被害などをどう解決していくかは、これから大きな課題です。では、なぜ、動物は人里にやってくるのでしょうか。それには、いくつかの理由があります。まず、里山が荒れ、奥山との区分がなくなったこと。人里で畑の作物などを食した動物が美味しい味を覚え、山に食物があっても出てくるようになったこと。栄養がよくなって繁殖力が増し、オオカミなどの天敵がいなくなったために個体数が増えたこと。高齢化によって狩猟者が減少したこと。不用意な餌付けで動物が人を恐れなくなったことなど。それらが複合的に重なり合い、人里に現れるようになったのです。

コウノトリの野生復帰計画は、人も鳥も共生できる環境をつくり、生物の多様性を取り戻そうという取り組みです。コウノトリを保護するための無農薬・減農薬の米作りは、安全な食を求める消費者のニーズに合致。環境保全が経済性と上手くリンクしています。

人と動物の関りは時代とともに変化するものです。しかし、生き物が多く住む所に暮らす人は健康度が高いといえます。これからは、人と動物が共生できる社会がキーワードとなるでしょう。

エールを送る神田会長

会場はホテルオークラ神戸の平安の間

記念講演会に引き続き、同会場で執り行われた記念式典では、まず、神田会長が拳を突き上げて「当協会の30周年ありがとう!」と会場の士気を鼓舞。そして、次のように30周年のご挨拶を行いました。

この協会が設立されましたのは、1979年、オゾン破壊の調査が初めて行われた頃でございます。それから30年を経た今、我々は環境から目をそらすことができないところに来ています。この30年、我々は常に、公共工事という大きな支えのもとに今日を迎えました。そのことを感謝しなければなりません。しかし、時代は変わりました。これからは公共工事に多くは期待できません。しかし、天は我々を救ってくれます。それは、地球温暖化防止に向けて、省エネルギーという大きな責務が国民全体、企業すべてに課せられていることです。これは、我々にとって大きなビジネスチャンスでもあるわけです。このビジネスチャンスを我々協会員は捉えていかなければなりません。幸いなことに、我が協会には、省エネに関する高い技術と知識を有する人材がたくさんいらっしゃいます。その人材を活かしながら、これからの業界を支えていかなければならないと思います。

この30年、我々は社会貢献も行ってきました。阪神・淡路大震災や台風23号の際には、協会こぞって復旧支援に関りました。後継者育成のため県立高校の支援も行い、最近では、県のイベントにボランティアとして参加もしています。これらは、これからも続けていきたいと考えます。

これまで、10年、15年、20年と周年事業を行ってまいりましたが、これらは通過点であったと思います。しかし、この30年は、40年・50年に向けての大きな第一歩であります。これからの我々の業界を、魅力ある、そして活力ある産業として育てていく必要があります。それが後継者への大きなプレゼントといえるかもしれません。それをやらなければ、これからの我々はありません。そういう意味でも、これからの1年は、非常に大事な1年であると思います。これからも、当局の温かいご支援を仰ぎ、一体となって環境問題に取り組みながら、業界から産業への転換を図れるよう頑張っていきたいと思います。

記念式典では、ご来賓の五百蔵副知事、当協会顧問の末松参議院議員および羽田野兵庫県議会議員より、温かいご祝辞を頂戴しました。

祝辞
兵庫県副知事
五百蔵 俊彦

30周年、こんなにたくさんの会員の方々、関係団体の方々、そして多くのご来賓の方々のご出席を得て、開催されますこと、本当におめでたい限りだと思います。

30年前、第2次オイルショックの真っ只中で、空調設備・衛生工事の施工技術を高め、住環境の向上を図り、社会に貢献しようとこの協会が設立されたそうです。振り返ってみますと、設立された昭和54年当時、兵庫県の下水道普及率は38%でした。それが、平成19年頃には90%を超えました。経済的退潮があった中でも、住環境は着実に、飛躍的に向上して今日に至っています。各家庭に至るまで、生活環境は大いに改善され、その多くの部分において空衛協会のご活躍があったと思います。

今は確かに、空衛協会・建設業界全般にとりまして厳しい環境にあると思います。例えば、公共事業費は、平成10年には15兆円でしたが、今は7兆円ちょうとでございます。それから、人口は２００５年にマイナスに転じ、社会的な需要が伸びるという環境にないことも事実でございます。しかし、会長からお話がございましたように、空衛の分野におきましては、活躍されるフロンティアは広がっていくのではないかと思います。40年代・50年代に建設された社会資源に大規模なメンテナンスが要求される時代が来ています。もう一つは、環境からの世界的・人類的な需要でございます。21世紀は、まず水で困るのではないかといわれているわけでございます。家電製品のエコポイントが評価されていますが、次は、住宅設備のエコポイントが必要ではないかという意見も表れているようでございます。そういう中で、環境対策という分野から、人類の将来を切り替える技術を確立し提案していくという大きな役割を空衛協会の皆さん方が任されるのではないかと思います。

阪神・淡路大震災の時に、随分社会貢献していただきました。建築設備の被災状況を調べ、応急対策をし、各家庭に至るまで、ご自身も被災しておられる中でインフラ復旧にご尽力いただきました。それをきっかけとして、社会貢献に熱心に取り組んでおられるのが、皆様方でございます。災害応援協定も締結していただいております。先の播磨の災害の折にも、応援していただきました。会長様もおっしゃっていらっしゃいますように、"あったら便利な協会から、なくてはならない協会へ"と。そして、一番大事なこととして社会に貢献していこうと。このような取り組みを進められる限り、将来は非常に明るく開けるのではないかと思います。

40周年、50周年に向けまして、会員の方々それぞれの企業が大きく発展されますことを心からご祈念申し上げ、30周年のお祝いとさせていただきます。

祝辞
参議院議員
末松 信介

今日は、兵庫県空調衛生工業協会が30周年を迎えられ、盛大に祝賀会が開かれましたことを心からお喜び申し上げます。

30年前は、政治の分野から見ましたら、イギリスのサッチャー首相が就任、日本では、大平総理が誕生いたしました。私にとっても、社会人としてスタートした記念すべき年でした。30年が経過する中では、いろいろな問題があったと思いますが、皆さん方が中心となって、乗り越えてこられました。衷心より敬意を表します。

建物の寿命は結構長いものですが、設備の寿命は案外短い。やはり、メンテをしていかなければなりません。我々が快適で文化的な生活ができるのは、皆さん方のお仕事あってこそでありまして、本当に、我々は感謝しなければなりません。

副知事からもお話がありましたが、阪神・淡路大震災の際や台風23号の時、大きな被害が出ました。そんな時も、積極的に、災害復旧にご協力いただきました。今は、県と災害応援協定を結び、災害特別委員会も設置しておられるとのことで、県民として感謝申し上げたいと思います。

話は変わりますが、8月の総選挙では、自民党は完敗いたしました。そのような時だからこそ、しっかりと膿を出し、頭を冷やし、自民党を自分なりにしっかり選択して、一からやり直すことが大事ではないかと思っています。新政権である民主党の皆さん、一生懸命頑張っていらっしゃいます。しかし、「コンクリートから人へ」という言葉は、いささか違うのではないかと思います。自民党をコンクリートに、民主党をヒューマンに例えての言なのでしょう。しかし、私たちは、コンクリートの中で生活してまいりました。コンクリートを使うのも人間であります。そして、コンクリートに護られているのも人間なのです。私は、「コンクリートと人の調和」というのが正しい言葉ではないかと思っています。政権交代した以上、いい政策を講じていただきたいと思っています。

これからは、会長からお話がありましたように、環境の時代であります。日本は、年間14億４２００万トンぐらいのCO_2を排出しているわけです。私も、環境の分野で大きく発展する可能性が建設業界にあると認識いたしております。

当協会が、40年、50年とさらに大きく飛躍されますことを心からご祈念申し上げまして、私の祝辞とさせていただきます。

祝辞
兵庫県議会議員
羽田野 求

兵庫県空調衛生工業協会30周年の記念式典を心からお喜び申し上げます。

今の非常に厳しい経済状況の中、当協会におかれましても、会員が減っているとお聞きしますが、ますます協会としての真価が問われていると思います。協会は新たに「進化、深化、真価」とのスローガンを作られましたが、なるほど、発展する進化、深める深化、企業や協会の真価が問われている、まさにそういう時を迎えているのだなと思います。そういう意味でも、30周年を契機に、当協会が社会的役割と環境への対応をどう深めていくか、進化させていくかが非常に大切ではないかと思います。

式典の前の増井先生の講演で、人間が忘れている心が自分の命を張って雛を守るというコウノトリの子育てにあるというお話がありました。こういう関りが、今の人間にとっても大切ではないかと思いました。私は、自分の政治的ポリシーとして「グリーン兵庫」というキャッチを掲げておりますが、自然との関りがまさに環境ということに繋がると思います。企業一つひとつが地球温暖化防止にどう対応していくのか。会長もおっしゃったように、まさに今、ピンチをチャンスに変えていく時だと思います。

そのような意味で、当協会が今後ますます発展され、40周年、50周年へと新しい出発をされることを心から祈念申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

記念式典では、表彰式も行われ、当協会に知事団体表彰、協会監事の池水健児氏に知事個人表彰が授与され、五百蔵副知事から賞状が手渡されました。また、親睦チャリティーゴルフ大会での募金を、公益財団法人兵庫県青少年本部に寄付したことに対して、青少年本部より協会に感謝状が贈られました。

さらに、協会からは、日頃の協会活動への貢献に対し、中條昌彦副会長、齊藤秋男理事、下井宏之委員、高井豊司委員に感謝状を贈呈しました。

協会創立30周年記念特集

協会創立30周年記念特集(2)

懇親会

午後5時30分、管楽器の生演奏で幕を開けた創立30周年記念懇親会。オープニングでは、協会30年の歴史を紹介するスライドがスクリーンに映し出され、アカペラグループ宝船が、中島みゆきのヒット曲「時代」のメロディーにのせて協会の歩みを歌い上げました。

つづいて、創立30周年記念事業推進特別委員会の中條昌彦委員長が、次のように開会のご挨拶を申し上げました。

皆さん、ようこそ、協会の30周年記念祝賀会にお越しくださいました。まずは、これまで協会運営を力強く支えてくださった歴代の会長、役員、理事の方々に感謝を申し上げます。皆さんのお陰で、今日、無事に30周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。また、本日はたくさんのご来賓においでいただきました。日頃より協会の運営に並々ならぬご支援を頂戴しております。本当にありがとうございます。

今から1年ほど前、30周年記念事業をどう運営しようかということで特別委員会が設置されました。30年を振り返るだけでなく、我々協会員がこれからの10年、20年をしっかりと歩み続ける基盤となるものにしようということになりました。また、これまであまり表に立つことのなかった若手のメンバーにも参加してもらおうと創立30周年記念事業若手ビジョン委員会も創設しまして、まず、若手後継者を対象にアンケートを実施しました。そして、メンバーの中から、集まって話そうという意見が出まして、6月に神戸駅前で"さわやか清掃ボランティア"活動を行いました。

また、水と空気の流れをイメージした協会の新しいロゴを作成しました。9月には、遺伝子研究の第一人者である筑波大学名誉教授の村上和雄先生の記念講演を開催し、笑いによって眠っていた遺伝子のスイッチが入り、明るく前向きになるというようなお話を伺いました。もう一つ大きな事業として、記念誌を制作いたしました。楽しいものを作ろうということで、協会員・賛助会員のスナップ写真と一言コメントを掲載しております。また、技術委員会が、現在の建築設備技術についてレポートにまとめています。お目を通していただきたいと思います。

本日は、兵庫県空調衛生工業協会の30歳のお誕生日会でございます。最後までどうぞお楽しみください。

兵庫県議会副議長・矢尾田勝氏の音頭で乾杯を行い、プログラムは祝宴へと移りました。

フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットによる管楽五重奏の美しい調べが会場を包み、リードボーカルの歌声にボイスパーカッションなどを合わせた重厚なハーモニーを奏でるアカペラグループの歌声が華やぎを演出するアトラクション。各テーブルでの歓談が最高潮を迎えた頃、モーニング姿の井戸敏三知事が駆けつけてくださり、ご祝辞を頂戴しました。

祝辞
兵庫県知事
井戸 敏三

京都御所で開かれた天皇陛下在位20年のお茶会に出席しておりまして、遅くなりましたことをお許しいただきたいと思います。30周年のお祝いにふさわしい格好で参上したわけでございます。

空衛協会が新しい建物に設備を入れていくという分野も大きいと思いますが、これからはストックを更新していく時代、ストックを大修理しながら使いまわしていく時代を迎えます。一番最初に弱ってくるのが水周りと空調であります。したがいまして、建物本体より設備が弱ってきますから、次々と新しい設備に替えていかに古い建物を使いこなしていくかという面で、協会の皆様方のフロンティアを広げていただくと、次の30年はさらに大きな仕事をしていただくことに繋がるのではないかと思います。

こちらに来る前に歌を作りました。

「蒼空に　調和を求めて　まもるべし
生活豊かに　協会事由」

空調衛生工業協会と生活の新しい関係の開発に心から期待を寄せさせていただきまして、私の祝辞とさせていただきます。おめでとうございます。

懇親会は午後7時30分頃までつづき、伊藤次郎副会長が閉会の挨拶で締めくくりました。

皆さん、本当に遅くまで、ありがとうございます。今日は、井戸知事をはじめ、多くのご来賓の方々にご参会いただきまして、心より厚く御礼を申し上げます。また、会員の皆さんにも、協会の発展にご尽力いただきましたこと、ありがとうございます。

今回の30周年は、2回の講演と本日の式典がございました。今日の講演では、増井先生に、人と自然の共生について教えていただき、大変嬉しく、感謝申し上げたいと思います。

先程より、世の中が大変厳しいというお話をたくさんいただいております。しかしながら、今から30年前の協会設立の折、既に地球温暖化に繋がるオゾン層破壊の調査が始まっておりました。1997年には京都において、世界が環境に関する約束事として京都議定書を作り上げたわけであります。今年には、鳩山総理大臣が国連において温暖化問題について表明を出し、オバマ大統領来日の際にも、環境の問題について一番にお話を行いました。世界は、戦争と平和と経済が話題の中心でありますが、環境を扱う業界に順番が回ってきたかにも思います。先程、末松先生よりお話がございましたが、コンクリートと人ではなく、我々は設備と環境だと思います。この政権において、公共投資のあり方が変わるのではないかと私は考えます。その中で、我々の業界が環境について貢献できることはたくさんあります。日本のCO_2削減努力に繋がる唯一の業界であります。また、我々の省エネルギーに関する技術は、世界のトップであります。新聞紙上で言われているいろいろな技術を世界に発信することが、我々が今後求める確かな事業となります。今までの30年は、本当に成長でございました。今後の30年も我々企業が大きく貢献することに、皆さんのなお一層のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

「30周年、感謝！」ありがとうございました。

伊藤副会長　神田会長　中條副会長

「時代」もと歌

空調衛生業界の
あしたを切り拓こうと
県下の仲間が集まって
協会をつくったよ

水と空気をとおして
便利で快適な暮らしをと
技術・技能を磨きながら
社会に貢献していこうと
心を一つに取りまとめて
協会員は歩みだした

まわる まわるよ 時代はまわる
社会も人の心も変わる
時代のニーズを取り入れながら
確かな業績 上げてきたよ

震災・台風・水害と
次々襲う 次々襲う災害には
ライフラインの復旧に
夜も日もなしに駆けずった
人の暮らしが一日も早く
よみがえることを祈りながら

めぐる めぐるよ 時代はめぐる
いま我らに求められるものは
地球の未来を守るための
手を携えた 取り組みなのだ

まわる まわるよ 時代はまわる
今日までの日々をふり返り
これから先の時代見すえながら
力強く 歩きつづける
今日をひとつの節目として
力強く 歩きつづける

今はこんなに悲しくて
涙も枯れ果てて
もう 二度と 笑顔には
なれそうもないけど

そんな時代もあったねと
いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと
きっと笑って話せるわ
だから今日はくよくよしないで
今日の風に吹かれましょう

まわる まわるよ 時代はまわる
喜び悲しみ繰り返し
今日は分かれた恋人たちも
生まれ変わって 巡り逢うよ

旅を続ける人々は
いつか故郷に出会う日を
たとえ今日は倒れても
きっと信じてドアを出る
たとえ今日は果てしもなく
冷たい雨が降っていても

めぐる めぐるよ 時代はめぐる
別れと出会いを繰り返し
今日は分かれた恋人たちも
生まれ変わって 歩き出すよ

まわる まわるよ 時代はまわる
別れと出会いを繰り返し
今日は分かれた恋人たちも
生まれ変わって 歩き出すよ
今日は分かれた恋人たちも
生まれ変わって 歩き出すよ

「時代」空衛協会バージョン

アカペラグループ［宝船］による
時代の替え歌 協会バージョン

平成22年 新年交礼会

社団法人 兵庫県空調衛生工業協会

●日時：平成22年1月13日（水）●場所：ホテルオークラ神戸1階 平安の間 ●参加者：240名

【主な御来賓（順不同・敬称略）】

井戸敏三 兵庫県知事／五百蔵俊彦 兵庫県副知事／末松信介 参議院議員
藤原昭一 兵庫県議会自由民主党議員団幹事長／野口裕 兵庫県議会公明党・県民会議議員団団長
羽田野求 兵庫県議会議員／鈴木篤 兵庫県理事／青山善敬 兵庫県環境担当部長
本井敏雄 兵庫県まちづくり担当部長／岩佐秀人 神戸市都市計画総局参事

寒波が襲来、神戸でも朝から小雪がちらついた平成22年1月13日、多数のご来賓と、県下各地よりご参集くださいました会員・賛助会員の皆様のご参加のもと、盛大に新年交礼会を催しました。井戸知事、顧問の先生方の大変含蓄あるご祝辞で始まった交礼会は、ご来賓や賛助会員と会員、また会員同士の交流が各テーブルで繰り広げられ、大変有意義なひと時となりました。

挨拶

（社）兵庫県空調衛生工業協会
会長
神田 武

改めまして、皆様明けましておめでとうございます。

当協会の新年交礼会を開催いたしましたところ、兵庫県より井戸知事様、五百蔵副知事様、そしてたくさんのご来賓の方々、関係団体の方々にご出席を賜り、ありがとうございます。会員の皆様方におかれましても、大変お忙しい中をご出席いただき、本当にありがとうございます。

私は、今年、近江商人の原点に戻り、三方よしで全てをやっていきたいと思っております。自分によし、他人によし、社会によしという三方よしです。そうすれば、また、自分によしが戻ってきます。一つのトライアングルを繰り返しながら、この一年を過ごしていきたいと思います。いわば、協会員によし、協会によし、社会・兵庫県・全てによしとなれば、世の中がよくなっていくのではないでしょうか。

協会は、一昨年より社会貢献に力を入れております。社会貢献をすることによって、社会に認めていただこうとしております。そうしますと、いま、クローズアップされている低炭素時代、地球温暖化防止に向けてのビジネスチャンスがあります。社会に認められれば、あなたたちに任せますよという話が幾多と来ると思います。それも、三方よしに繋がっていくのではないかと思います。そういうビジネスチャンスを作ることによって協会員が良くなるかもしれません。それが消費者・国民にとってよしとなり、地球全体にとってよしとなるという形で動いていくのではないかと思いますので、その辺も併せまして、社会貢献に頑張っていきましょう。

今日、井戸知事様はじめ行政関係のご来賓にお越しいただいておりますが、我々が社会貢献を行っていることを十二分にご理解いただきたいと思います。我々は、全て手弁当でやるつもりです。兵庫県主体の支援事業は何でもおっしゃってください。我々はこれからもも応援・お手伝いを行いたいと思っています。青少年育成におきましても、尽力したいと思っております。後継者を育てるためには、きちっとした青少年育成を行わねばなりません。青少年育成に力を注ぐことが、後継者を育てることに繋がり、後継者が育てば、企業もますます繁栄すると考えています。今後も、協会を挙げて、青少年育成に力を入れていきたいと思います。

ここで、知事様・副知事様に、お年玉としてお願いしたいことがつございます。我々はさまざまな社会貢献活動を行っていますが、経営事項審査の社会貢献の点数として認められているものとそうでないものがございます。県の支援事業に対して我々がお手伝いし、社会貢献をした場合、それを必ず認めていただきたいと思います。そして、点数が認められない場合は、それがなぜ認められないかを論議するテーブルを設けていただきたいと思います。各種団体と行政担当部署の方々とが、一つのテーブルにつき、どのように支援を行っていくかを話し合えば、費用も削減できると思います。いろいろ議論しながら、兵庫県を良くするように努めてまいりたいと思いますので、是非テーブルの企画をお願いいたします。

本日は、本当にたくさんの方々にご出席いただきまして、ありがとうございました。皆様方のご健勝を祈念いたしながら、ご挨拶とさせていただきます。

祝辞

兵庫県知事
井戸 敏三

皆さん、改めまして、明けましておめでとうございます。

私は、1月1日、1番機に乗りまして、皇居の新年祝賀に参内しましたが、飛行機から見た山々の緑は大変冴えておりました。経済状況等、厳しい年越しでありましたが、何とか明るい兆しを確実なものにしたいという思いをもちました。その際、機上で短歌を詠みました。

「初日あり　輝く富士の姿こそ
　新年の望み　叶えらるかし」

国の平成22年度の予算は−18%と公共投資には非常に厳しいものであります。地方財政計画の単独事業でも−18%という状況でございます。しかし、一方で、地方交付税が1兆1千億円需要を増やしております。需要を増やしている理由は、地域の振興・地域経済対策を地方団体で行って欲しいという要請でありますから、県といたしましても、100億円前後だと思いますが、それを活用して、緊急の事業に宛てようと考えています。緊急の事業というのは、例えば、耐震補強の徹底、土石流よけの砂防ダムや砂防堰堤などの建造、山の管理を徹底するための作業道などの整備などです。それが、地域経済の振興にもつながるという予算化を行いたいと思います。併せまして、私は以前から、高等学校にまでエアコンを入れる必要は無いと断固主張していたのですが、太陽光パネルと併せて空調を入れるなら、それは自然エネルギーの活用に繋がりますので、それは認めても良いかと内心思い、検討を加えているところでございます。ただ、それほどのボリュームにはなりません。いずれにいたしましても、今年も業界の皆さんにとりましてかなり厳しい運用が迫られるということになろうかと思います。一方で、更新需要がかなり出てこようかと思います。その更新需要に対して、どう的確に対応するかは、重要な要因でありますし、特に更新の際に省エネをどのように実現していくかということも、期待していかなければならない分野だけに、是非、ご指導いただき、普及を図っていただきたいと願っている次第でございます。

ともあれ、今年一年いろいろな課題もありますが、皆様方とともに、充実したものにしていかなければいけません。できることをきちっと成し遂げていく年に、そのような実現実行の年にさせていただければと願っている次第でございます。最後に、兵庫県空調衛生工業協会のますますのご発展と、皆様方のご健勝でのご活躍を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

新年交礼会においては、11月18日に池水健児監事が兵庫県知事賞、12月8日に小野正明理事が兵庫県自治賞を受賞されたことが紹介され、神田会長からお祝いが贈呈されました。また、協会創立30周年記念事業を成功に導いた推進特別委員会と若手ビジョン委員会の面々を壇上に招いて、その業績を披露。大きな拍手で賞賛を送りました。

空衛協会恒例の日本酒による乾杯は、五百蔵副知事に音頭を取っていただきました。副知事は、乾杯のご挨拶で「協会の皆様方の社会貢献活動を評価するテーブルを用意して欲しいとの神田会長のお話がございました。知事も是非やろうとご判断されるに違いございません。新年度より、そういうテーブルを設け、いろいろ相談させていただければと思います」と、神田会長の提案にさっそくお答えをくださいました。

防災&エコ探検隊

■兵庫県災害対策センター

防災意識を、いま新たに！

多様な危機に対応する中枢拠点を訪問

会議しやすい馬蹄形のテーブルを配置するとともに、災害に関する最新情報を提供するフェニックス防災システムなどを備えた災害対策本部室。

兵庫県防災監　木村 光利さん

阪神・淡路大震災から15年を経たいま、県人口の3分の1は震災を知らない人々となり、震災を経験した人々の記憶も薄れつつあります。そのような状況の中、もう一度震災の経験と教訓を思い起こし、防災意識を新たにしようと、広報委員会では、1月8日（金）、兵庫県災害対策センターを訪問。兵庫県防災監・木村光利さんにお話を伺うとともに、災害対策活動の中枢拠点施設を見学させていただきました。

平成12年に開設された兵庫県災害対策センターは、全国自治体初の災害対策専用庁舎。震度7クラスの大地震などいかなる災害にも耐えられる強固な建物に、たとえライフラインが途絶しても庁舎機能がダウンしないよう多重化した設備を完備。県庁舎内の災害対策関係部署を集約・一元化し、24時間の監視・即対応システムで、風水害・地震などの自然災害はもとより、新型インフルエンザなど多様な危機に迅速かつ柔軟に対応する体制を整えています。同センターではまた、観測情報収集・災害情報収集・地図情報・映像情報などの機能を供えたフェニックス防災システムや、兵庫衛星通信ネットワークを活用し、被害予測や被害状況把握など災害に関するあらゆる最新情報の円滑な収集・処理・提供を行っています。

兵庫県災害対策センターの案内映像に見入る広報委員。

災害対策本部室について説明する木村博樹兵庫県企画県民防災企画局長。

出力400kVAの自家発電機を2台設置。発電機は、地震波の方向にかかわらず少なくとも1台は機能するよう、東西・南北の2方向に設置されている。

上水のほか専用井戸を備え、平時は雑用水として、また、災害時には二重濾過を施して飲用水としても利用できるシステム

兵庫県災害対策センターは誰でも見学できます。職場で仲間で訪れてみてはいかがでしょう。
■ 兵庫県企画県民部防災企画局、災害対策局
☎ 078-341-7711　http://web.pref.hyogo.lg.jp/org/org_pa20.html

兵庫県防災監に聞く、防災上の問題点と私たちにできること

―兵庫県災害対策センターはどのような役割を果たしているのでしょうか？

木村　県には、県土整備部、農林・環境関係など災害に関連する多様な部局があります。しかし、災害時にはそれらが総合的・立体的に対応する必要があるという大震災の経験・教訓から、平成8年4月1日に、災害対応事務を統合施行するセクションとして防災監という制度がつくられました。災害発生時には、対策本部長の知事以下、関係部署のトップが集まり、どのような対応をしていくか検討し、対応を決めます。しかし、当初は、さまざまな関係部署を一カ所に集約できるスペースがありませんでした。そこで、平成12年8月に当センターが開設されました。本部長以下関係部局長が集まって会議を行え、被害予測や被害状況など災害に関するあらゆる最新情報を提供するフェニックス防災システムなどを備えた本県の災害対策本部室や、平時は防災局の事務室として機能し、発災時には情報収集等を行う災害対策本部事務局室などを備えています。北朝鮮のテポドン発射や新型インフルエンザに対しても、ここが対策本部になりました。そして、ここには、平時から防災関係の職員が集まり、執務しています。

―県下は広域ですから、他との連携も大切なのでしょうね。

木村　県下には10県民局があり、何か事が起これば、それぞれが地方の対策本部を立ち上げます。例えば、今回の台風9号の際は、西播磨県民局長が地方本部長となり西播磨エリアでの対応を行いました。今回は朝来市も被害を受けましたので、但馬にも対策本部が立ち上げられました。それら地域の防災拠点との連携も行います。いかに迅速かつ的確に連携していくかが、防災対策の上で重要なポイントですね。

（社）兵庫県空調衛生工業協会
広報委員　下井 宏之

―震災から15年がたち、震災を知らない世代も増えてきましたが。

木村　震災の年に生まれた子どもたちも義務教育を終えようとしています。そうした震災を知らない子どもたちや被災地外から越して来られた方々にも、阪神・淡路大震災の経験・教訓をつないでいかなければなりません。また、経験した人々も、15年の間に徐々に忘れていくところがあります。協会の皆さんも、震災時、大変なご苦労の中ライフラインの復旧にご尽力くださったわけですが、その経験を伝えていかなければならないのではないかと思います。知らないということは存在しなかったことになってしまいますから。それで、"伝える、備える"をテーマに、周年事業を展開しています。シンポジウムやフォーラムを開催し、いろいろなテーマについてのディスカッションを通して記憶を新たに再生していきます。

県主導の事業だけでなく、民間の方々が展開される事業に対しても支援を行っています。

―ゲリラ豪雨などの自然災害に対して脅威を感じていらっしゃいますか？

木村　近年、災害そのものが変化し、ゲリラ豪雨や巨大竜巻など想定外の災害がどんどん起きています。それらに備えることには限界があるかもしれません。しかし、人間は知恵の動物です。災害の発生を防ぐことはできなくても、災害被害を減らすことはできます。減災への努力をしていかなければならないと思います。もちろん公的な防災・減災対策を充実しなければなりません。それと同時に、阪神・淡路大震災で学んだ「公助・自助・共助」を広めていかなければなりません。いざ災害が起きた時にどう逃げるか・行動するかは自らにかかっています。体の不自由な方や高齢者など災害弱者を助けるのは家族や近隣の人々など共助にかかっています。ですから、自助や共助が行えるための支援も行政はしていかなければならないと思っています。

（社）兵庫県空調衛生工業協会
広報委員　高井 豊司

（社）兵庫県空調衛生工業協会
広報副委員長　山口 潤一

―いま、一番の課題は何だとお思いですか？

木村　最大の課題は、高齢化です。高齢になると引きこもり気味になり、地域とのつながりが薄れがちです。自治会やコミュニティで上手く支え合うという形が望ましいのですが、自治会のお世話をする人の高齢化も進み、コミュニティの力を維持していくことが困難になってきています。防災にはコミュニティの力が不可欠です。普段顔を合わせない関係では、共助は困難です。兵庫県の自主防災組織率は95・8％と震災後急激に伸びましたが、熱心な組織とそうでない組織が存在するのが実情です。ただ、防災訓練や研修はコミュニティの結びつきを生み出し、活性化にもつながると思うんです。皆さんのような協会の方々に地域での防災リーダーになっていただいて、自主防災組織の活動を積極的に進めていただけるとありがたいですね。

平成21年9月15日～23日

兵庫県青年洋上大学 体験レポート

三神工業(株)　松永　隆之

兵庫県青年洋上大学に参加して

私の青年洋上大学への参加は社長からの1本の電話から始まりました。

社長に「中国に研修に行かへんか?」と言われ、どんな内容の研修かも解らず、ただ興味だけで参加する事を決めました。事前研修に参加し青年洋上大学とは何かを実際に知りました。県が主催する『ひょうご県民交流の船』にて県民の方約370名・洋大生約80名・スタッフ約50名とが同じ船上において共に生活し、幅広い世代の人々と交流する事により地域や世代を超えた連帯意識や仲間作りに役立てると共に船内活動の運営を通じて果すべき役割や社会参加への自覚を培う。

中国を訪問しホームステイや現地の大学生との交流を行い国際感覚を養うという事が目的であるという事を知りました。また共に研修を行うメンバーとも出会い本研修への期待が膨らみました。

平成21年9月15日多くの人に見送られ、ふじ丸は総員約500名を乗せ神戸港を出向しました。往路3日、中国滞在4日、復路2日の計9日間の研修が始まりました。船内活動では班のつどい・朝のつどい・クラブ活動・ふれあい交流際・洋上夏祭りなどで県民の方と交流、普段の生活では聞く事の無いような話を聞き大変良い経験となりました。復路の東シナ海では先の大戦により亡くなられた多くの方の御冥福をお祈りすると共に平和の誓いをこめて洋上慰霊祭を行いました。親族が亡くなられた方もおられ、戦争について考えさせられる事も多々ありました。講話ではジェフ・バークランド氏、田辺眞人氏・野尻武敏氏と著名な先生方の話を聞きとても勉強になりました。兵庫県知事、井戸敏三様との懇談会もあり知事は洋大生からのどんな質問に対しても親身に的確に答えていただき感動を覚えました。

中国では上海・北京・大連と3都市を訪問し、先ず感じたのは上海の高層ビル群の凄さでした。建設中の建物の多さには本当に驚き、いきなり中国という国のパワーを体感しました。北京では万里の長城や故宮の見える景山公園という所に行き中国の歴史の古さ、壮大さを感じる事が出来ました。企業訪問では首都鋼鉄有限公司という製鋼の会社を見学させてもらいました。広大な敷地内には約3万人の従業員が働いていると聞いて、二つの同じ工場内で3万人もの従業員が働くなんていう事はまず日本では有り得ない事だと思い度肝を抜かれました。また、ホームステイでは長陵鎮村という北京の郊外にある村に行き洋大生4人1組で各家庭にお世話になりました。全く中国語が話せない私達は何とか交流を深める為中国語の本を片手に身振り手振りで話しかけましたがなかなか理解し合う事が出来ずに苦労しました。もう少し中国語を勉強していればよかったと反省しました。

北京第二外国語学院の生徒との交流会では数人のグループに分かれ北京市内を散策したり、意見交換会を行いました。中国の学生は日本留学経験者であったり日本語専攻の方ばかりで中国語が話せない私にとってとても助かりました。色々な学生と話をしましたが、みんなしっかりした考えや将来の夢を持ち勉強を頑張っているんだなと感じました。

大連では水師営会・203高地・東鶏冠山と日露戦争の舞台となった場所を見学し戦争の凄さ、怖さを体感しました。

復路の船内ではこの研修の集大成として、事前研修から本研修に至るまで学び感じた事をチームに別れ「青年洋上大学生の主張」という形で発表しました。この研修で大変多くの事を学び、どのチームも素晴らしい発表になり発表を終えると胸が熱くなりました。

たった9日間の研修ではありましたが、普段の生活の9日間では絶対経験することの出来ないとても充実した研修になりました。

最後に兵庫県洋上大学に参加し素晴らしい体験をさせていただいた関係者の皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。

(株)但馬近畿工業　北村　慎二

兵庫県青年洋上大学に参加させてもらう事になって一番最初に思った事が、「人と話をするのが苦手で自分の意見をなかなか言う事が出来ない僕が参加しても大丈夫なのかな?」でした。

初めは7月25日から26日の事前研修会でした。会場は兵庫県自治研修所でした。但馬地区から参加した僕は、家を出てからの数時間の間、初めて会う人と上手く接する事が出来るかどうか不安でした。研修所につくとすぐに参加者の人から話しかけてもらえて、少し楽になりました。開始の時間になって、参加者全員が初めて会う人と二つの部屋に集まりました。みんな少なからず緊張しているのがわかりました。この時から僕の洋上大学が始まりました。事前研修では、チームでの自己紹介やチームのスローガンや、本研修中に行うプロジェクトごとの活動内容などを、みんなで意見を出し合って決めました。でも僕は自分の意見を出すことが、あまり出来ませんでした。その時に本研修中にこの性格をなおせたらいいなと思いました。

この後2回目の事前研修・結団式があり、とうとう9月15日の本研修となりました。出発前は仲良くなったメンバーと、本研修の時に楽しみな事や不安な事を話しました。本研修が始まり1日目にあった班の集いで、いきなり物事は予定通りには進まないという事が判りました。班の集いとは、ひょうご県民交流の船に参加されている方と世代間交流を行うものです。始まるまでは、県民の方達と楽しく話をしたり出来ると思っていました。でも始まってみると、洋大生の方が県民のみなさんの元気に圧倒されてしまい、連絡事項などをうまく伝えることが出来ずに注意されたり、迷惑をかけてしまいました。あと数回ある班の集いが不安でした。でも洋大のメンバーと話し合って「次からは県民の皆さんに負けないくらい元気に物事を話そう」と話し合いました。その時に話し合ってみて、みんなの意見は自分の意見などを発信する事が大切なんだという事でした。

その後、中国に上陸して、北京第二外国語学院大学の学生さんと交流しました。学生のみなさんは、僕達が思っていた以上に日本語が上手でビックリしました。学生のみなさんも、自分の意見を真っ直ぐ発信していました。それに発信とは逆に、相手の話をしっかりと聞くと言う事にも力を入れていたように思いました。少しの方言などにも反応して覚えようとする姿勢にもビックリさせられました。

この後の洋大生活でも、発信する力と受信する力という2つの力が生活において当たり前に必要な力だけど、これほど意識して考えたのは初めてでした。洋上大学で、この2つの力を再確認できてとても良かったです。

今後の生活・仕事にも、この2つの力を生かして生活していきたいと思います。

最後に、今回兵庫県青年洋上大学に参加させてもらって、変わろうと思えるきっかけをいただき、ありがとうございました。

県庁だより

■ 兵庫県立加古川医療センター　～ヒルトップ・ホスピタル～

兵庫県 県土整備部 住宅建築局 設備課　主査　宮本 敏和

● 兵庫県立加古川医療センターについて

県立加古川医療センターは県立加古川病院を移転・新築し、加古川市神野町に平成21年11月1日、オープンしました。

旧県立加古川病院は、東播磨圏域における中核的病院としての役割を果たしてきましたが、老朽化が進み、耐用年数が経過しつつあることから、県民のニーズに対応した医療を提供するために改築整備が必要となりました。また、他の県立病院との役割分担や機能連携を前提に、専門医療や施策医療を中心に提供する病院として、診療機能の見直しや充実が求められました。こうしたことを背景に県立加古川医療センターは糖尿病、がん、脳血管疾患等の生活習慣病の将来的な増加に対応する専門医療機能の整備を図るとともに、3次救急医療、緩和ケア医療等の機能も備えた病院として改築整備を行うこととなりました。

また、①現在地が狭隘であること、②新病院においては東播磨圏域及び北播磨圏域を対象とする救急救命センターを設置すること、③緩和ケア病棟や感染症病棟など通常より広いスペースが必要な施設を整備すること、④災害拠点病院に必要なヘリコプターの離発着に支障がないことなどを考慮すると現在地での建て替えは困難であり、移転新築による新病院の整備となりました。

建物は全方位からランドマークとなる小高い丘の上の病院「ヒルトップ・ホスピタル」をコンセプトに、暖色系の外壁と緑を写すガラスの組み合わせでこの地に調和させ、高層部は見る角度によって表情を変えるべく端部に特徴を持たせたデザインとなっています。

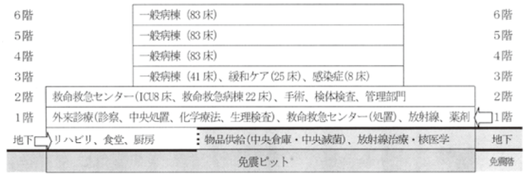
● 設備の特色について

当センターは、災害の際に重要な拠点となりますが、地震の際にも災害医療を保証するため、免震建築構造とし、各種設備配管には免震継手を設置しています。また、大規模災害時に訪れる患者数は、救急外来診療室として用意しているスペースをはるかに超えるものとなります。このため、1階外来ホールや2階講堂に医療配管などを備え、簡単な外科的診療が可能なよう配慮しています。

病室は、精神的にも肉体的にも弱い立場にある入院患者にとっての一時的な住まいです。個室以外の4床室では、他人同士が同じ部屋で生活することを強いられるため、病室カーテン内のプライベートエリアに快適な環境が要求されます。空調について、各ベッドごとに風量制御ができるようベッドサイドに個別スイッチを設け病室環境の向上に配慮しています。また各ベッドサイドに洗面コーナーも設けています。

手術室は全8室あり、清潔環境の目安となる室内の空気洗浄度は、7室はクラス10,000を、1室は特に高度な無菌手術ができるように空気洗浄度はクラス100を保つようHEPAフィルターユニットを設置しています。また、室内の圧力を高くする陽圧制御を基本とし、外部からの汚染を防止しています。

● 施工管理について



工事を進める中で、病院側からの要望などにより多くの追加・変更が発生しましたが、迅速に検討・対応いただきました。なかでも、病室についてはモデルルームを造り、病院関係者と施工業者が一体となって実物での検証を行い、施工に反映させていただきました。衛生設備では、限られた予算の中、コスト削減のため上水管（市水）と雑用水管（井水・雨水利用）を同一の材質にすることとしました。事情をご理解いただき快く誤接続防止に向け、管の文字色が異なるメーカーの採用・保温後の色別表示など施工方法の工夫を行っていただきました。空調設備では、各室内の許容騒音の目標を遵守すべく計算を行い、ダクト消音器の設置や配管の防振吊りなどを提案・施工していただきました。

最後になりましたが、工事施工業者の皆様には施工にあたりこの紙面に書ききれない程のご尽力・ご協力をいただきました。この場をお借りして深く感謝致します。

【建築概要】
建築名称：兵庫県立加古川医療センター　建設場所：兵庫県加古川市神野町神野209
延床面積：32,101.43㎡　構造：鉄筋コンクリート造（免震構造）
階数：地上6階・地下1階　病床数：353床
施工者：（空調）菱和・精研・三神・建部・近畿特別共同企業体　（衛生）大成温調・三枝設備・播丹実業特別共同企業体

編集後記

昨年の協会創立30周年記念式典の行事を終え、新しい年を迎えました。

次の10年に向かって船出したとはいえ、政治と金の問題、日本航空の破綻などが新聞紙上をにぎわし、一向に景気低迷の現実から抜け出せる気配が見られません。

そのような中で協会活動は、会員に有用な研修会を行い、また行政機関とも効果的な意見交換のテーブルを提案するなどの取り組みが始まりました。

広報誌の発行も、冊子の発行を削減したかわりに、新しく会員向けに「号外」として、年に2回タイムリーな情報をお届けするように改めてまいりました。

広報委員会もさらに他府県などの協会と情報交換するといった、外に目を向けた記事づくりに尽力して、会員各位に魅力ある紙面づくりを進めてまいりたいと考えています。

今後とも「ゆう和」の冊子、号外をよろしくお願いします。

井戸 知事から30周年懇親会でいただいた

「蒼空に　調和を求めて　まもるべし　生活豊かに　協会事よし」

の歌のように進もうではありませんか。

■広報委員会

EDITORIAL STAFF

委員長　原田 猛
副委員長　広瀬 彰
副委員長　山口潤一
委員　下井宏之
〃　高井豊司
〃　藤井一博
〃　山中賢作

「ゆう和」2010年 協会創立30周年記念特集号／発行日 平成22年2月 ／ 発行者 社団法人 兵庫県空調衛生工業協会 広報委員会 ／ 企画・編集 株式会社 ケーオーツー

30th ANNIVERSARY

協会創立30周年記念特集(3)

記念事業

舗道にこびりついたポイ捨てガムを除去する若手ビジョン委員会の面々。

11月18日に開催した、創立30周年記念式典・祝賀懇親会のほかにも、多彩な記念事業を展開しました。

30周年事業をこれからの10年、20年につなげていこうと、若手メンバーに参加を促して「若手ビジョン委員会」を発足。まず、後継者問題や協会事業への参加意向、協会に期待すること等についてアンケートを実施しました。アンケート結果からは、技術研修会や経営開発研修会への参加や、入札・関連資格・新商品・労務管理の情報提供の希望が多く、実質的な活動および情報が求められていることが分かりました。また、6月には県下各地から若手会員が神戸に集結。清掃ボランティア活動で汗を流し、親交を深めると共にそれぞれの想いを語り合いました。

9月には、人の遺伝子暗号の解明に世界で初めて成功された筑波大学名誉教授・村上和雄氏を招き、「遺伝子が目覚めれば、人生が変わる」と題した記念講演会を実施しました。村上先生は、「たった2000億分の1gしかない人の細胞核1個の中に、64億の遺伝子情報が書き込まれ、それらは休みなく間違いなく働き続けている。しかも、人間は、60兆の細胞から成り立っている。それら遺伝子のうち、働きが分かっているのは2%ぐらい。そこで、眠っている良い作用をする遺伝子のスイッチをオンにし、起きている悪い作用をする遺伝子のスイッチをオフにすることができれば、人の可能性はまだまだ伸びる。例えば、笑いによって糖尿病患者の血糖値が下がるという実験結果が得られた。笑いと遺伝子の関係は解明されていないが、きっと笑いに関連する遺伝子があるはず。どの遺伝子が笑いによってオン・オフするか、研究が進めば、"笑い"という副作用のないクスリによる治療が実現するかもしれない。また、良い方向に環境が変わることでスイッチがオンになることもある」などとお話しくださいました。さらに、遺伝子の暗号は解明されたが、遺伝子を何者が書き込んだかは分からない。それを追求すると、目に見えない不思議な自然の世界があるのではないかと考えるようになる。それをサムシング・グレートと呼び、すべての生物の元のようなものであり、今なお全生物の中で働いているものと定義していると語られました。そして、日本人特有の精神文化と科学技術のバランスをとることができれば、日本は世界から期待され、尊敬される国になるとメッセージを送られました。

「笑いの研究」にも取り組む村上和雄名誉教授。

ほかにも、創立30周年記念誌を企画・制作しました。オールカラー130ページの記念誌は、これまでの硬いイメージを刷新、ビジュアライズで親しみやすい体裁になっています。特に会員の素顔が垣間見える、写真・一言コメント付き会員名簿は必見です。

協会創立30周年記念特集

お知らせ

2月3日（水）兵庫県公館において表彰式が行われました。

【平成21年度「さわやかな県土づくり賞」表彰】　・美樹工業（株）　・三神工業（株）

【平成21年度「兵庫県優秀施工者賞」表彰】　当協会から3名の方が受賞されました。ご家族の方も式典に出席され、壇上、表彰状と家族に記念品が渡されました。

・（株）但馬近畿工業　斎藤 浩巳様　・播磨設備（株）　山本 清一様　・和田（株）　高林 毅様

多数会員のご参加をお願いします。

- **技術研修会の開催**　とき：平成22年2月16日（火）13:30～　ところ：神戸市勤労会館
- **設備産業暴力団不当行為追放研修**　とき：平成22年3月9日（火）14:00～　ところ：神戸市勤労会館
- **第35回 通常総会**　とき：平成22年5月18日（火）15:30～　ところ：ホテルオークラ神戸　平安の間